

「(仮称) 第3期日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」  
策定に向けた調査  
【ヒアリング調査報告書】

令和8年2月

日 野 市



# 目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象および調査方法.....	1
II	調査結果.....	3
1	児童館等施設における子どもの意見聴取.....	3
2	関係団体および学校・園への調査.....	6
(1)	関係団体.....	6
(2)	学校・園.....	9

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

「(仮称) 第3期日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」の策定を進めるにあたり、子ども本人や学校・園ならびに子ども・子育て支援団体関係者のご意見・ご要望を把握し、そのニーズや意向を計画に反映させるため、ヒアリング調査を実施いたしました。

本報告書では「児童館等施設における子どもの意見聴取」および「関係団体および学校・園への調査」の調査結果を記載いたします。

## 2 調査対象および調査方法

### (1) 児童館等施設における子どもの意見聴取

日野市内の児童館および子ども関連の支援施設を利用している子どもに対して、現地での対面式ヒアリングを実施しました。事前に用意した質問項目に沿って、1対多数のインタビュー形式でご意見を伺いました。

#### 【実施場所および回答者数・回答者内訳】

実施場所	回答者内訳		
まんがんじ児童館 計27名	小学4年生 6名 中学1年生 2名 高校1年生 1名 その他(22歳ボランティアスタッフ) 1名	小学5年生 12名 中学2年生 1名	小学6年生 4名
ひらやま児童館 計27名	小学1年生 1名 小学5年生 2名 中学2年生 1名	小学3年生 9名 小学6年生 7名	小学4年生 7名
ほっとも高幡 計9名	小学3年生 2名 中学1年生 1名 高校1年生 1名	小学4年生 1名 中学3年生 2名	小学5年生 2名
フリースペース たけのこ 計11名	小学2年生 1名 小学5年生 2名	小学3年生 3名 小学6年生 1名	小学4年生 4名

## (1) 関係団体および学校・園への調査

日野市内の子どもに関係する支援団体、および市内保育園・幼稚園、小学校、中学校に対してヒアリングシートによる調査を実施しました（オンラインフォームでの回答）。一部団体に対しては、質問内容をより詳細に伺うため、電話およびWEBによるヒアリングを行いました。

### 【調査対象一覧】

区分	回答者※依頼した内、回答のあった学校・園及び団体		
関係団体 (23件)	ほっとも日野 みさわ児童館 (公財) 社会教育協会 あさひがおか児童館 しんめい児童館 日野市立まんがんじ児童館 ひの市民活動支援センター ほっとも高幡 おむすびころりん かめひろば フリースクール寺子屋のびの~び くらしの自立相談支援窓口みらいと みらいと高幡 マインドー読み書き苦手な子の学習会ー	おむすびキッチン 日野市立みなみだいら児童館ばらねっと NPO法人フードバンクTAMA 子ども包括支援センター内中高生世代スペース 日野市立次世代育成型子育てひろばあかひやね 一般社団法人10代と社会をつなぐプロジェクト 日野市ヤングケアラーコーディネーター事業 ほっとも多摩平 無料学習塾 日野すみれ塾 c-plant	
市内公立学校・園 (29件)	<b>【保育園・幼稚園】</b> たかはた台保育園 しんさかした保育園 栄光多摩平の森保育園 日野保育園 もぐさ台保育園 第二幼稚園	みなみだいら保育園 あおぞら多摩平保育園 日野わかば保育園 至誠いしだ保育園 子どもの森あさかわ保育園 第七幼稚園	
	<b>【小学校】</b> 七生緑小学校 滝合小学校 南平小学校 日野第五小学校	旭が丘小学校 仲田小学校 平山小学校 日野第六小学校	東光寺小学校 豊田小学校 日野第四小学校 日野第七小学校
	<b>【中学校】</b> 七生中学校 日野第二中学校	三沢中学校 日野第四中学校	平山中学校

## Ⅱ 調査結果

### 1 児童館等施設における子どもの意見聴取

調査は7つの質問項目に基づいて対面でのインタビュー形式で実施されました。以下では、質問項目ごとに得られた回答およびいずれの項目にも該当しない「その他」の回答を一部抜粋・整理して記載いたします。

#### 1 どんな遊び場や居場所があったらいいかな？

##### 【屋内施設】

- ・Wifiが使える児童館、体育館、秘密基地のような場所（子ども専用スペース）。
- ・鏡付きのスタジオ（ダンスやテコンドー）や天候に左右されず遊べる広いスペース。

##### 【公園・屋外施設】

- ・運動ができる場所（野球場、ドッグラン、自然環境がある公園、アスレチック、滑り台、ブランコ）。
- ・ボール遊びが可能な公園。
- ・芝生エリアやターザンロープなど遊具が充実した施設。

##### 【その他】

- ・子どもと大人が交流できる場所や、お母さんが休憩できるスペース。

#### 2 どんな体験活動をしてみたい？

##### 【スポーツ体験】

- ・新しいスポーツ（剣道、ラグビー、クライミング、バレーボール、野球）。
- ・運動・ダンス・バスケットボールなどの身体活動。

##### 【職業体験】

- ・保育士、パティシエ、ネイル・美容部員、消防体験や地震体験などの職業活動。

##### 【ものづくり・料理】

- ・レインボーソルト作り、工作、歌や音楽制作（Garage Band）、料理体験（パフェ、ハンバーグ、カレー、スイーツづくり）。

##### 【自然・文化活動】

- ・自然体験（生き物と触れ合い、田んぼで稲刈り）。
- ・工場見学（カップラーメンやお菓子の製造）。

### 3 放課後や休みの日にどう過ごしたい？

#### 【友達との交流】

- ・友達と遊ぶ（鬼ごっこ、ドッジボール、カラオケ、バカ話をする）。

#### 【家族との時間】

- ・家族と出かけたり、ゲームをしたりする時間が楽しい。

#### 【個人の活動】

- ・家で勉強やゴロゴロする、マンガを読むなど、自由時間を過ごしたい。

### 4 悩みがあるときだれに相談したい？

#### 【身近な人】

- ・家族（親、兄弟姉妹）、信頼できる友達、学校の先生。

#### 【その他】

- ・専門的サポート。
- ・スクールカウンセラーや放課後施設のスタッフ、AI（ChatGPTなど）。

### 5 大人に自分の意見を言うのは難しい？

#### 【難しいかどうか】

- ・難しくない（多数）。
- ・難しい（少数）。

#### 【難しい理由】

- ・怒られることが怖い、言葉にするのが恥ずかしい。
- ・伝えたい事がまとまらないため、相手への信頼がないため。

#### 【言いやすい場合】

- ・信頼関係がある親や先生、共感してくれるお年寄りの場合には言える。

### 6 友達の良いところ、自分の良いところは？

#### 【友達の良いところ】

- ・優しさ、面白さ、一緒にいると楽しいところ、励ましてくれるところ。

#### 【自分の良いところ】

- ・努力家、野球が得意、優しい、記憶力が良い。
- ・自分の良いところが見つからない。

## 7 なにをしているときが一番楽しい？

### 【友達との遊び】

- ・鬼ごっこ、ドッジボール、バスケ、野球などのチームスポーツ、一緒にゲームをする時間。

### 【個人的な楽しみ】

- ・おしゃれやメイク、音楽、読書・マンガを読む時間。
- ・動物や自然に触れ合う体験、温泉やおいしいものを食べること。

## 8 その他

- ・地域のお祭りにもっと関わりたい、特別なイベントの運営や企画に参加したい。
- ・明るく安全な場所、きれいなトイレ、避難場所となる施設がほしい。

### 結果の総括

- ・子どもの遊び場や活動支援の充実を求める声が多くみられました。具体的には、屋外・屋内施設のバランス、充実したスポーツ・自然体験の提供などが挙げられます。遊び場の整備や体験活動の強化が求められている現状です。
- ・心理的なサポート体制の必要性を感じさせる回答もみられました。具体的には、相談しやすい環境づくりを求める意見や、大人との信頼関係構築を重要視する意見などが挙げられます。スクールカウンセラーや地域支援者を活用し、信頼できる相談窓口を確保していくことなどが有効と考えられます。
- ・自己肯定感については、一部で自身を低く評価していると思われる回答がみられました。自分の良さを見つけられる場や機会を提供していくことが重要になります。

## 2 関係団体および学校・園への調査

関係団体に対しては 16 の質問項目、学校・園に対しては 12 の質問項目を設けて調査を実施しました。以下では、関係団体および学校・園それぞれの回答結果を要約・整理して記載いたします。

### (1) 関係団体

1 貴団体と関りがあるお子さんやそのご家庭において、困難を抱えている様子のあるご家庭はいらっしゃいますか

- ・困難を抱える家庭の存在を認識している。特に、外国籍、不安定就労や低収入家庭、ひとり親家庭などが顕著である。
- ・子どもが進学機会や十分な体験活動を得られない状況がある。

2 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭において、特別な背景や特徴は見られますか

- ・外国籍家庭では言葉の壁、社会的仕組みに対する理解不足が課題である。
- ・日常生活における孤立、ゴミ屋敷状態など生活面の混乱がみられる。
- ・保護者が病気や精神疾患、障害を抱える家庭もみられる。

3 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭における保護者には、生活面や就労の面でどのような特徴がありますか

- ・非正規雇用、短期間の就労、継続勤務が困難なケースがみられる。
- ・保護者の不安定な生活や食料の不足、物価高騰による家庭内の困難がみられる。
- ・保護者自身が心身に問題を抱えていることが多く、子どもへの十分な対応が難しくなっている。

4 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「保護者」との関係性で特徴的なことはありますか

- ・子どもが保護者に甘えられない、家庭内で本心を抑え込む傾向がみられる。
- ・特に母子家庭では親子の結びつきが強く、子どもが家庭内で無理をしている様子がみられる。

5 貴団体が支援している困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「支援者」との関係性で特徴的なことはありますか

- ・子どもが支援者に対して信頼を寄せ、相談や関係構築が進む傾向がみられる。
- ・支援の場を通じて、子どもの行動や精神面の変化が促されるケースもみられる。

6 「保護者」と「支援者」との関係性で特徴的なことはありますか

- ・保護者が「支援を受けること」への後ろめたさを感じることもある。
- ・信頼関係が構築されると積極的に相談してくることもある。

7 貴団体の活動範囲内で解決していくことを想定している現状の課題をお答えください

- ・活動資金不足、人員確保、広報不足、ネットワーク構築が課題。
- ・不登校の子どもや特性を持つ子どもへの対応が困難。

8 貴団体以外（行政等）からの支援が必要と思われる現状の課題をお答えください

- ・資金援助や人材確保、複雑な家庭問題への包括的な行政支援が必要。
- ・支援ネットワークや行政と現場の連携の強化が課題。

9 現在連携している関係機関をお答えください

- ・子ども家庭支援センターや各種行政機関、学校、児童館、フードバンクなど。

10 今後連携したい関係機関をお答えください

- ・高校、大学、地域の医療機関や企業、特別支援学校など。

11 貴団体の活動の中で最も効果的だったと思われる独自の取組について、具体的にお答えください

- ・食事提供や居場所の活動、個別学習支援が特に効果的であった。子どもの参加を通じた成長変化や地域支援者との結びつきがみられた。
- ・取組の中で個別に対応したい子どもにアクセスできないことがある。親が来させるケースはいいが、親が隠すために来させないケースもある。

12 活動をより充実させるために、行政に求めたいことはありますか

- ・資金援助、人材確保、継続的な支援体制構築。
- ・具体的な施策として広報活動や支援物資調達の改善。

13 活動をより充実させるために、地域の人たちに協力を求めたいことはありますか

- ・地域イベントや講演による啓発活動の支援。
- ・見守り体制への地域参加の促進

14 今後、貴団体で取り組んでいきたいと考えている活動はどのようなことですか

- ・新しい居場所づくり、中高生向けの学びの場提供、普及活動。
- ・親子の支援を同時に行い、生活全体を支援する取組。

15 現在の制度・支援のあり方、広報等の課題についてお答えください

- ・支援対象者の認知が不足しており「支援が必要だ」と思える仕組みづくりが重要。

- ・ 不十分な運営資源の改善が必要。

## 16 子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組には、どのようなものが考えられると思いますか

- ・ 食事支援、居場所提供、継続的な学びと相談支援など。
- ・ 地域や行政、学校との連携を活用し、包括的な支援体系を構築する必要性がある。
- ・ 学校との連携が非常に難しい状況であるため、より積極的に連携する必要がある。
- ・ ボランティアを含め、支援への参加のハードルを下げていくことが重要である。

### 結果の総括

- ・ 経済的困難や就労不安定を抱える家庭の支援が必要との回答がみられました。また、保護者への精神的・生活上のサポートを強化していくことが重要であるとの意見もみられました。
- ・ 子ども本人については、子どもが安心できる居場所・食事の提供の拡充が重要であるとの意見がみられました。
- ・ 地域・行政・学校等、多機関による連携を強化していくことを求める意見も複数みられました。

## (2) 学校・園

1 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭の、子ども、保護者において、特別な背景や特徴はありますか

- ・ひとり親世帯や両親不在（離婚、内縁関係など）が多く見られる。
- ・保護者が病気や精神的不安定、不可逆な経済的困難を抱える家庭も存在。
- ・保護者が養育スキル不足に直面するケースや、ヤングケアラー経験を持つ場合も確認。
- ・愛着不足、自己表現困難など、家庭の影響と考えられる子どもの特徴。

2 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「保護者」の関係性で特徴的なことはありますか

- ・保護者が忙しく、子どもとのコミュニケーションが希薄な家庭が多い。
- ・反面、ある程度のコミュニケーションが保たれている家庭は問題が軽減。
- ・保護者が子どもの生活に無関心になるケースや、保護者側が過剰に支配的である傾向が指摘。

3 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭において、「子ども」と「教員・幼稚園教諭・保育士」との関係性で特徴的なことはありますか

- ・教員・保育士に過度な心理的依存や甘えを示す傾向あり。
- ・教育現場において教員が家庭の代替的役割を果たす期待が見られ、職務を超える対応に課題がある。

4 貴校・貴園に在籍する子どものうち困難を抱えるご家庭において、「保護者」と「教員・幼稚園教諭・保育士」の関係性で特徴的なことはありますか

- ・教員への過度な依存、非協力的態度、不満の表明などが散見される。
- ・経済的困難が表面化した家庭では、支払いや連絡が滞る傾向。

5 現在連携している関係機関をお答えください

- ・子ども家庭支援センター
- ・八王子児童相談所
- ・エール（発達・教育支援センター）
- ・日野警察署
- ・NPO団体（子ども食堂、子どもの居場所づくり支援など）

6 今後連携したい関係機関をお答えください

- ・保護者支援に強みを持つ団体や、家庭・子ども双方にアプローチできる機関。
- ・医療支援機関など、専門的な助言が可能な団体に期待。

7 貴校・貴園で実施した中で、教育や福祉に関連すること以外に最も効果的だったと思われる独自の取組について、具体的にお答えください

- ・放課後学習の支援体制や、地域人材を活用した体験型活動（稲作体験、物語の会など）。
- ・児童館でのフードパントリーや、中古衣服提供など実用的な支援。

8 上記のような取組をより充実させるために、行政に求めたいことはありますか

- ・制度の周知や相談機能の充実（特に夕方・夜間対応の必要性）。
- ・教育や福祉に必要な予算・人的リソースの拡充。
- ・社会福祉制度を視覚化し、保護者の負担を低減する調整に期待。

9 上記のような取組をより充実させるために、地域の人たちに協力を求めたいことがありますか

- ・子ども食堂や不登校支援活動の強化。
- ・保護者も巻き込んだ地域ネットワーク作り。

10 今後、貴校・貴園で実施したいと考えている取組は、どのようなことですか

- ・放課後支援、学習支援の強化に資源を集中したい。
- ・地域活動をベースとした子どもと保護者を包括する活動計画。
- ・現在、他機関と情報共有を行っているため、これを継続していきたい。

11 現在の制度・支援のあり方、広報等の課題についてお答えください

- ・福祉や子ども貧困支援の制度が十分認知されていない。
- ・忙しい保護者に対応可能な支援制度（相談時間帯、手続き簡素化）が不足。
- ・行政で関係機関間の効果的な連携にむけた支援が必要。
- ・現場での認識と行政の認識にずれがあり、必要な子どもに支援が届いていないケースがある。

12 子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組には、どのようなものが考えられると思いますか

- ・子ども食堂やフードパントリー活動の推進。
- ・子ども家庭支援センターを軸としたソーシャルワークの強化。
- ・教育・福祉人材の専門性向上や、地域住民の理解促進を通じた支援強化。
- ・給食費の公費負担により、不登校の子どもなどにも気軽に給食を出せるようになり、効果が大きい。

## 結果の総括

- ・保護者の養育スキル向上と心理的安定が子どもの成長に直接影響するため、家庭単位での課題解決を重視する意見がみられました。

- ・教育職員が家庭問題に深く関与しなくても、関係機関とのスムーズな連携が図れる体制作りを早急に整備する必要性が指摘されています。
- ・忙しい保護者や意識の薄い保護者も利用しやすい福祉制度の広報や仕組み作りが急務であるとの意見がみられました。また、地域人材・NPOを活用した支援体制を充実させ、行政と地域が一体化して支える仕組みが重要との意見もみられました。

奥付欄